

平成29年度 水源環境保全・再生市民事業支援補助金  
実績報告書

①	特定非営利活動法人 アシスト	1
②	特定非営利活動法人 海の森・山の森事務局	5
③	特定非営利活動法人 小田原山盛の会	7
④	特定非営利活動法人 共和のもり	8
⑤	特定非営利活動法人 相模原こもれび	9
⑥	特定非営利活動法人 四季の森里山研究会	10
⑦	特定非営利活動法人 四十八瀬川自然村	11
⑧	自然保護団体 Bond-Making Action	12
⑨	湘南二宮・ふるさと炭焼き会	15
⑩	特定非営利活動法人 丹沢自然学校	16
⑪	戸川森づくりの仲間	17
⑫	なかい里山研究会	18
⑬	特定非営利活動法人 ファームパーク湘南	19
⑭	森のなかま	20
⑮	森のなかま2012	26
⑯	湯河原森のなかま	27
⑰	特定非営利活動法人 よこはま里山研究所	28



事業結果報告書

事業名	名倉地区森林伐採事業
団体名称	特定非営利活動法人 アシスト
実施期間	平成 29 年 5 月 26 日から、平成 30 年 3 月 24 日まで
実施場所	神奈川県相模原市緑区名倉 3114 番地

【事業の目的及び目標】(計画)

これまで森林は地権者による木材生産を軸とした経済活動を通じて、地域住民の暮らしとの関わりの中で整備・保全されてきました。しかし、若い世代が都市へ流出し、山村地域の高齢化や過疎化などにより林業離れが進行し、適切な整備がされずに放置される森林が増加し、荒廃しています。我々 NPO が率先して活動を行い地域住民に協力を呼びかけることで森林保全の重要性を広く普及させ、安心安全な県民生活と地域温暖化防止に大きな役割を持つ水源環境の保全・再生を実施していきます。

水源地を保有する者の管理に任されている森林整備は、目的に沿った機能を確保すること自体地権者の努力だけでは難しくなっており、県民にとって水源保護のための水源地保全という発想も薄い現状です。そこで、すでに各地域で活動し住民に近い立場の当団体が情報発信していくことで住民の理解が深まり、知恵と活動力を活かして事業を行うことで森林の多面的機能が持続的に発揮され環境を重視した新たな森林づくりへと転換するとともに、森林を健全な状態で次世代に引き継ぐことで、水源環境の保全・再生に繋がると考えています。

【事業の成果】(結果)

名倉地区において、5 月 26 日作業日程の打合せを行い、技能講習受講者、伐採経験者による講習後、作業を開始しました。

森林整備作業(下草刈り・枝打ち・間伐)を行い、当初計画どおり 0.6ha の整備を行いました。参加人数は下記のとおり、また事業経過は別紙のとおりになります。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	10 日	67 人 (領 58 人、領外 9 人)	面積 0.6ha
間伐材	日	人 (領 人、領外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人 (領 人、領外 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

# 作業報告書

【森林の保全・再生事業】

日付		作業内容		
H29	5	26	作業日程打合せ 参加者5名(会員5名)	
	6	3	名倉地区にて竹の間伐作業 参加者7名(会員6名・会員外1名)	整備面積 0.3ha
		5	名倉地区にて下草刈り作業 参加者5名(会員4名・会員外1名)	整備面積 0.6ha
	5		備品購入(軍手)	
		17	名倉地区にて枝打ち作業 参加者7名(会員6名・会員外1名)	整備面積 0.6ha
	24		備品購入(軍手)	
		7	10	備品購入(保護メガネ)
	18		事務用品購入(プリンターインク)	
		22	名倉地区にて竹の間伐作業 参加者6名(会員5名・会員外1名)	整備面積 0.3ha
	8	3	事務用品購入(写真用紙・SDカード)	
5		名倉地区にて竹の間伐作業 参加者8名(会員7名・会員外1名)	整備面積 0.3ha	
9	27	資機材購入(ダイヤモンドカッター)		
	H30	1	8	名倉地区にて枝打ち・間伐作業 参加者7名(会員5名・会員外2名)
3		3	名倉地区にて枝打ち・間伐作業 参加者7名(会員6名・会員外1名)	整備面積 0.6ha
4		公開プレゼンテーション参加 参加者2名(会員2名)		
	11	名倉地区にて枝打ち・間伐作業 参加者6名(会員5名・会員外1名)	整備面積 0.6ha	
20		報告書作成		
24		活動振り返り 参加者9名(会員9名)		

事業結果報告書

事業名	名倉地区間伐材利活用事業
団体名称	特定非営利活動法人 アシスト
実施期間	平成 29 年 5 月 20 日から 平成 30 年 3 月 24 日まで
実施場所	神奈川県相模原市緑区名倉 3114 番地

【事業の目的及び目標】(計画)

間伐材の搬出は不採算になることが多いため、その大半が林内に放置されており、再生産可能で環境にやさしい資源であるにもかかわらず、僅かしか利用されていません。間伐材の適切な利用を確保することは、名倉地区における森林の適正な整備・保全、環境温暖化防止及び循環型社会の形成に貢献し同地区の振興に大きく資するものです。

公共の場等の現在老朽化し使用されなくなったテーブル・ベンチ等を撤去し、同地区の森林に放置されている間伐材を利用して新たにテーブル・ベンチ等を製作・設置します。又、伐採した竹を利用して、竹ぼうきを製作し地域の自治体等に設置します。地域の間伐材を利用することで可能性をアピールし、利用拡大を図り、森林循環による持続的な森林管理や健全な森林育成に貢献し、水源環境の保全・再生に寄与するものと思えます。また、テーブル・イス等の表面に絵(しずくちゃん)や『もり・みず市民事業支援補助金』を活用していることを明記し、憩の場となるような癒しのオブジェを作り集客力アップを期待しています。森林を育て、守り、そして上手に利用していくことは、水源環境の保全・再生の構築に資すると考えています。

【事業の成果】(結果)

名倉地区において、5月26日、7月8日に作業日程の打合せを行い、5月20日から間伐材利活用作業に使用する備品類の購入を行い、テーブル・ベンチ2セット、切り株イス4個を製作し、3月に葛原神社・バス停に設置しました。

又、間伐した竹を利用して竹ぼうき20本、熊手3本製作し地域自治会等に設置しました。参加人数は下記のとおり、また事業経過は別紙のとおりになります。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	136人 (領 125人、領外 11人)	面積 ha
間伐材	13日	131人 (領 120人、領外 11人)	トナリ・竹 搬出量 20 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人 (領 人、領外 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

# 作業報告書

【間伐材の利活用促進事業】

日付		作業内容	
H29	5	20 備品購入(ニツパ)	
		26 作業日程打合せ	参加者5名(会員5名)
	6	31 備品購入(バケツ・網等)	
		1 備品購入(釘)	
	7	22 備品購入(背負い籠)	
		26 備品購入(ペンキ)	
		27 備品購入(ハケ)	
		29 備品購入(ペンキ)・トラックレンタル	
		30 名倉地区にて丸太の集材・搬出・製材	参加者13名(会員11名・会員外2名)
		30 備品購入(ビス)	
		2 備品購入(軍手)	
		3 備品購入(軍手)	
		8 作業日程打合せ	参加者5名(会員5名)
		10 備品購入(釘)	
	8	13 備品購入(ビス)	
		15 備品購入(インパクトキリ)	
		18 備品購入(ハケ等)	
		20 備品購入(ビニールシート)	
		29 名倉地区にて丸太イスの製作・塗装	参加者12名(会員11名・会員外1名)
		5 名倉地区にて丸太イスの設置	参加者9名(会員9名)
9		12 備品購入(ローラー・ポリ容器)	
		25 備品購入(ドライバードリル)	
10	7 名倉地区にて間伐材の製材	参加者12名(会員11名・会員外1名)	
	12 名倉地区にて間伐材の製材	参加者12名(会員11名・会員外1名)	
	26 備品購入(塗料・筆)		
	27 名倉地区にてテーブル・イス等製作	参加者12名(会員11名・会員外1名)	
11	1 備品購入(電気カナヅ)		
	4 名倉地区にてテーブル・イス等の塗装・キャラクターを描く・ほうき製作	参加者12名(会員11名・会員外1名)	
	8 名倉地区にてテーブル・イス等の塗装・キャラクターを描く・ほうき製作	参加者12名(会員11名・会員外1名)	
	14 備品購入(塗料)		
12	22 備品購入(台車)		
	28 備品購入(ステンレス線・ロープ止め)		
H30	1	9 備品購入(塗料)	
		10 備品購入(インパクトドライバー・塗料)	
	13 備品購入(ローラーバケツ・金具)		
	14 名倉地区にてテーブル・イス・ほうき等製作・塗装	参加者12名(会員11名・会員外1名)	
	3	4 公開プレゼンテーション参加	参加者2名(会員2名)
		10 葛原神社休憩所・バス停等にテーブル・ベンチ・丸太イス等設置	参加者11名(会員9名・会員外2名)
	20 報告書作成		
	24 活動振り返り	参加者9名(会員9名)	

## 事業結果報告書

事業名	神奈川の源流域探索ツアーと源流域写真展開催 *
団体名称	NPO 法人海の森・山の森事務局
実施期間	平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 27 日まで *
実施場所	西丹沢、南足柄市、大岡川源流域など * *
<p>【事業の目的及び目標】</p> <p>●目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県民に自分たちの使う水に興味を持っていただく。</li> <li>2. 水源地の環境の現状を実際に見て、保全・再生の必要性を知っていただく。</li> </ol> <p>●計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎月 1 回県内において源流域ツアーを開催する。</li> <li>2. 会員数 220 名まで増やす。</li> <li>3. 神奈川県源流域を知ってもらうための写真展を開催する。</li> <li>4. 活動の広報のための広報紙を年 4 回発行する。</li> <li>5. イベント開催の告知をラジオ (特に FM ヨコハマ) で広報する。</li> <li>6. 新聞社との連携を深めて、活動の広報に役立つような記事掲載の方向性を見出す。</li> <li>7. イベントで活動する際は、いただいた「のぼり旗」を掲げる。</li> </ol>	
<p>【事業の成果】</p> <p>(結果と成果)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ツアー開催事業は、10 月が天候不順で開催できなかったこと、3 月は参加者がインフルエンザに罹ってしまって開催できなかったこと以外は、ほぼ順調に執行できました。</li> <li>2. また事業執行にともない、特に会員を増やすという目標は、今年度開始直後は 130 名ほどだった会員が、本報告書提出日現在、201 名 (達成率 91.4%) まで増やすことができました。</li> <li>3. 写真展開催は、3/8 の 1 日だけでしたが、マリントワー 3F ホールにおいて開催。あいにくの雨だったため、観覧者数はさほどではありませんでしたが、マリントワーとの連携が確立でき、今後の開催にもつながりました。また別件にて、2018 年度になってしまいましたが、ゴールデンウィーク中にみなとみらい・MM テラスにて、9 日間の写真展開催も決まりました。</li> <li>4. 広報紙の発行は、4/20、7/20、10/20、1/20 と年 4 回発行しました。今後も同様の発行日程にて継続して発行していきます。(広報紙 大岡川ニュース A3 版 オールカラー 6 ページ、毎号 5,000 部発行)</li> <li>5. ラジオにおける広報は、FM ヨコハマには 5 回出演し、活動や活動目的などを広報し、活動の運営に役立てました。</li> <li>6. 新聞に対しては、こちらから掲載をお願いすることなどできませんが、日頃の活動の効果もあり、神奈川新聞に 4 回、タウンニュースに 1 回掲載していただくことができました。</li> <li>7. 今年度始めにいただいた「のぼり旗」を活用させていただきました。「のぼり旗」の効果は予想以上で、各所にて多くの方たちから私たちの団体、活動に興味を持っていただけました。また同時に県との連携もご理解いただけ、とても役立ちました。2018 年度は独自にも「のぼり旗」を製作し、活動に役立てていきます。</li> </ol>	

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	人 (員 人、員外 人)	面積 ha
間伐材	日	人 (員 人、員外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (員 人、員外 人)	
その他	日	人 (員 人、員外 人)	
普及啓発	50 日	, 270 人 (員 90 人、員外 180 人)	
調査研究	日	人 (員 人、員外 人)	
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】			

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること

事業結果報告書

事業名	箱根山地 <sup>にあつる</sup> 二ホンジカ生活痕跡調査
団体名称	特定非営利活動法人小田原山盛の会
実施期間	平成 29 年 4 月 30 日から 30 年 3 月 31 日まで
実施場所	箱根山地

【事業の目的及び目標】(計画)

餌の豊富な箱根山地のシカ生息状況は、この三年間の調査で急激な上昇が起こっている事を肌で感じている。詳細な調査により、行政(環境省・県・市町村)や地域住民、捕獲者等に科学的な情報提供を行い、シカ対策に貢献することで、植生劣化域の広がりを未然に防ぎ、水源林としての機能を保全し、健全で豊かな森林生態系を守る事を目的としている。

箱根山地のシカ問題及びシカ対策はまだ市民の関心が薄いため、捕獲体制の構築に向けて、広く情報提供の機会や場が必要である。

今年度は外輪山東部の林業被害に焦点を当て、周辺の植生劣化との関係性や、被害の実態を探る調査を行うと共に、地権者や環境団体、市民に伝えるイベントやシンポジウムに力を入れた。また箱根山地の現状を丹沢との対比の中で検討する必要を感じ、丹沢ウオークを開催した。

【事業の成果】(結果)

30 回近い箱根山地の生活痕跡調査と、林業被害の実態調査を行い、今年は 3 年間の調査結果を冊子にまとめた。山地では林道や新植地、伐採地などがホットスポットとなっていた。シンポジウムに参加された静岡県の大場氏の研究によると、♀グループは餌の豊富な場所に定着し、そこは高密度化するとの事で、本会のホットスポット調査は捕獲対策のための大変有効な情報となる事が分かった。林業被害はこの数年間で累積し、柵なしでは成林しえない状況である事が判明した。本会の情報提供、および見学会や苗ガード設置イベントを通して、森林組合や地権者による柵の設置の検討が始まった。県の水源林においても柵の設置が始まっている。

林業被害の発生している周辺では嗜好性の高いアオキが退行しており、誘引物としての可能性を感じるに至った。

丹沢ウオークでは、土壌流出の起こった場所の土壌の再生は難しく、17 年経過した保護柵の中でも、いまだ樹木の育たない状況が観察された。植生劣化が進み土壌流出に至った場合の不可逆性を知り、箱根山地はそれを未然に防がなくてはならないと強く感じた。

シンポジウムでは定員を上回る参加者があり、多くの市民や行政の方に箱根山地の現状とシカ対策強化の必要性をお伝えする事が出来た。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	人(領 人、領外 人)	面積 ha
間伐材	日	人(領 人、領外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	39 日	471 人(領 174 人、領外 297 人)	
その他	40 日	470 人(領 172 人、領外 298 人)	
普及啓発	日	人(領 人、領外 人)	
調査研究	日	人(領 人、領外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	平成29年度水源環境保全・再生市民事業支援補助金 間伐林、間伐材搬出、利活用
団体名称	特定非営利活動法人共和のもり、森林の保全・再生、間伐材の利活用促進
実施期間	平成29年4月3日から 平成30年3月30日まで
実施場所	足柄上郡山北町皆瀬川周辺

【事業の目的及び目標】(計画)

共和地区の森林は、海向きの水源林エリアであるが、アカノカミキリの侵入により虫食いの木とびり(あかね木)、木材が売れず、森林整備が遅れていよ、健全な森林とは言い難い。  
よこ、間伐を促進させ、間伐材を搬出・集材・加工し、丸太のバッチャ、スエーデン子等加工・販売することにより、あかね木の普及、当団体の自立、水源涵養機能の向上を目的とする。

【事業の成果】(結果)

○森林の保全・再生での間伐は予定通りの面積を終わらせることができたが、予定より早く終わってしまったため、活動日数や参加人数は少なからず。  
○間伐利活用部門では、計画以上の木材の搬出量を出すことができた。会員も会員外の参加者も、搬出の自信がでてきたのと、技術や量に意欲がわいており、来年度の活動にむけていっしょだ。加工についても、活動することにより、地域内外から、注目を集めることとなり、技術も向上させ、U2入に善果に結びつけていきたい。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	4 日	16 人 (会内 9 人、会外 7 人)	面積 0.5 ha
間伐材	23 日	659 人 (会内 239 人、会外 420 人)	種類 27 種、搬出量 6 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (会内 人、会外 人)	
その他	日	人 (会内 人、会外 人)	
普及啓発	日	人 (会内 人、会外 人)	
調査研究	日	人 (会内 人、会外 人)	

※ 内容上は、概ね、間伐材部門の活動の中心実施。

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	豊かな森づくりとその保全		
団体名称	特定非営利活動法人相模原こもれび * 28 *		
実施期間	平成 29 年 4 月 13 日から平成 30 年 3 月 31 日まで		
実施場所	相模原市木もれびの森：南区大野台・西大沼・麻溝台		
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の保全・再生については、下刈り、伐木、林床整備等の作業を確実に遂行し、森の衰退化を緩和していくと共に植樹による森の再生への取り組みを更に促進していく。活動の円滑な運営と継続には担い手の確保と資金調達が欠かせないが、企業の CSR 活動支援や各種団体の体験活動の支援は有効な手段であり、その維持、拡大を図っていく。</li> <li>・普及啓発活動は地道な取り組みであり絶え間なく継続していくことが大切であるが、子ども達や一般市民の自然保護意識を醸成していくために普及啓発イベントを企画、提供していくと共に、行政や環境団体が主催するイベントに参加し発生材を活用し製作したシイタケホダ木や魅力ある木工品の販売や木工クラフト体験等の提供を促進していく。</li> <li>・資機材の購入については、頓に必要性が増してきた大径木の伐木用にガイドバーの長い大型のチェーンソーを購入し安全確実な伐木作業を遂行する。</li> </ul>			
<p>【事業の成果】(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の保全については、雨のため数回中止したがほぼ計画通り怪我なく実施できた。森の再生については、3 年前より取り組んできた苗の育成が進み準備が整ったため、伐木によって得られるギャップに苗を植樹し森を再生していく活動を 3 月に行うことが出来た。これからも機会を捉え苗の植樹による森の再生を促進していく。</li> <li>・普及啓発については、各種イベントに参加したほか自然観察会、体験活動、小中学校の学習協力などを実行し一応の成果を達成できた。又、多くの人々が森に訪れ親しむことが出来るように、相模原市との協働事業として森の案内看板作りとマップ作り事業が採択され次年度より実行する。</li> <li>・衰退化が進む大径木の伐木作業を大型チェーンソーの購入により安全かつ円滑に実施することが出来た。</li> </ul>			
部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	57 日	1277*人 (領 983 人、領外 294 人)	面積 13.7ha
間伐材	日	人 (領 人、領外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	30 日	2199*人 (領 231 人、領外 1968 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】 無し</p>			

※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。

※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	横浜市内小学校生徒対象の水源環境教育事業*		
団体名称	特定非営利活動法人四季の森里山研究会*		
実施期間	平成 29 年 4 月 3 日から	平成 30 年 3 月 13 日まで	
実施場所	横浜市緑区寺山町 291 県立四季の森公園		

【事業の目的及び目標】(計画)

- ・横浜市内の小学生を対象に、かながわの水源環境保全・再生の必要性を理解してもらい、森林保全に対する意識の向上や将来森林ボランティア活動に参加する意識を醸成するため水源環境教室を開催する。
- ・同補助金を活用して環境教育や普及啓発活動を行っていることを PR するため、会のホームページに補助金の活用について明記する。

【事業の成果】(結果)

- ・県立四季の森公園にて春・夏・秋・冬を通して4回、自然観察会を行い、自然の移り変わりについて学ぶとともに、森と水との関係についてわかりやすく説明し、かながわの水源環境を守る大切さについて学習した。
- ・平成 30 年 3 月当該小学校にて出前授業を行い、一年を通して学んできたことについて振り返りを行った。
- ・出前授業では、もり・みず市民事業補助金を活用し購入した実体顕微鏡で見た土壌生物の動く様子をモニター画面に映し出し観察した。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	人(領 人、領外 人)	面積 ha
間伐材	日	人(領 人、領外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人(領 人、領外 人)	
その他	日	人(領 人、領外 人)	
普及啓発	14 日	697 人(領 97 人、領外 600 人)	
調査研究	日	人(領 人、領外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	<del>スキルアップ部門</del> 間伐材の利活用促進事業 <i>お家で作る間伐材製品</i>		
団体名称	NPO 法人四十八瀬川自然村		
実施期間	平成 29 年 4 月 3 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで		
実施場所	秦野市菖蒲・柳川・		
【事業の目的及び目標】 (計画)			
<p>森林・里山の整備で派生する間伐材は最大限の資源循環を目指し、多方面での活用を図る。なお同補助金を活用して活動を行っていることをPRするため、HPや会員募集チラシに明記するとともに作業現場に(しずくちゃん)のロゴマーク入りののぼり旗を立てる。</p>			
【事業の成果】 (結果)			
<p>利活用の目標数値にほぼ成果が得られた。                  特に人工林の間伐材で作成した「木製コンポスト」は自主財源の新たな製品として、期待が持てるものとなった。                  成果物 木炭生産—4000キログラム                  椎茸原木—900本                  薪生産—30立方メートル                  木製コンポスト—40台                  原木椎茸栽培—50キログラムほか</p> <p style="text-align: right;"> <i>上期 44日 439人 } 会員                  下期 59日 447人 }</i> </p>			
部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	934 人 (領 人、領外 人)	面積 ha
間伐材	<del>103</del> 104 日	<del>940</del> 人 (領 <del>892</del> 人、領外 48 人) 886	種類杉・ひのき・クヌギ 搬出量 120 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人 (領 人、領外 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】			

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

## 事業結果報告書

事業名	丹沢大山自然再生を目指した自然体験 及び 都市農村交流プロジェクト
団体名称	自然保護団体 Bond-Making Action
実施期間	平成 29 年 4 月 3 日から 平成 30 年 3 月 25 日まで
実施場所	神奈川県 伊勢原市、秦野市、足柄上郡山北町
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>本活動は、以下の 3 点から自然体験や情報発信を通じて総合的に丹沢大山の自然再生を行なうことを目的として実施する普及啓発・環境教育プロジェクトである。</p> <p>①自然再生活動を行なう NPO 法人様と連携し、現地での活動を共に行なう  丹沢大山自然再生活動を行なわれている NPO 法人様の活動にマンパワーとして参加しながら、地域の方々と交流し、知識や技術の継承、地域に元気を与える都市農村交流活動である。チェーンソーや刈払機などの機材の使用についての講習会を実施し、参加する若者の森林整備作業のスキル向上を目指した活動も行なっていく。</p> <p>②丹沢の自然の現状を知り、自然環境の大切さ・素晴らしさを体感してもらう  丹沢大山自然再生委員会でも取り上げられている鳥獣害や登山道の荒廃を、自然観察会や登山プログラムを通じて現状をお伝えする自然体験活動である。専門家を講師としてお招きし、参加者の理解を深めるためのプログラムを実施する。</p> <p>③都心部のカフェ等で情報発信イベントとして交流会を実施し、自然再生活動を行なう NPO 法人の方々と都市部の若者が交流し、丹沢の自然の現状を知る  活動場所が都心部から程近いと言っても、参加者層の都合や心情（友達と一緒にないとダメ、参加費が高い、1 日なら参加できる etc...）には色々な状況がある。そうした中で、若者にとって都心部のアクセスしやすい場所で、気軽に来れる雰囲気を作り、動画などを用いたプレゼンテーションを通じて、丹沢大山の自然や現地での活動の様子について知ってもらう情報発信イベントを行なう。これは参加者層の若者に興味を持ってもらうための働きかけでもある。</p> <p>同補助金を活用して活動を行なっていることを PR するため、団体 HP や会員募集チラシに補助金について明記すると共に、作業現場に「しずくちゃん」のロゴマーク入りののぼり旗を立てるなどの工夫をする。</p>	

【事業の成果】(結果)

2017/5/14 (1day プログラム)

- 連携先：伊勢原森林里山研究会様 (伊勢原市)
- 参加者数：3名 (男性2名、女性1名)
- 活動内容：田植え、里山整備作業、選木作業

2017/5/21

畦ヶ丸山登山 (ネイチャーツアー) を企画したが、参加者が集まらず不催行

2017/6/24~25

- 連携先：四十八瀬川自然村様 (秦野市)
- 参加者数：7名 (男性4名、女性3名)
- 活動内容：竹林整備、炭の搬出・選定作業、薪割り体験、間伐材利用

2017/7/23

- 連携先：丹沢自然学校様 (山北町)
- 参加者数：4名 (男性3名、女性1名)
- 活動内容：シャワークライミング

2017/11

参加者が集まらず不催行

2017/12/16

※ 根幹交流会

- 連携先：なし (自主的活動)
- 参加者数：4名 (男性3名、女性1名)
- 活動内容：市民事業交流会、体験ブース提供 (竹ぽっくりづくり)

2017/12/23

都市農村交流会 (於：神奈川県川崎市) 17名

2018/1/20~21

- 連携先：四十八瀬川自然村様 (秦野市)
- 参加者数：6名 (男性3名、女性3名)
- 活動内容：竹林整備、チェーンソー講習会

2018/2

参加者が集まらず不催行

2018/3

参加者が集まらず不催行

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	人 (会員 人、会外 人)	面積 ha
間伐材	日	人 (会員 人、会外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (会員 人、会外 人)	
その他	日	人 (会員 人、会外 人)	
普及啓発	8日	54人 (会員 15人、会外 39人)	
調査研究	日	人 (会員 人、会外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	中井町北田地区竹林間伐事業、 足柄上郡中井町北田地区間伐材の利活用促進事業		
団体名称	湘南二宮・ふるさと炭焼き会		
実施期間	平成29年4月3日から平成30年3月31日まで		
実施場所	足柄上郡中井町北田字板が谷戸211番地1、同211番地3、同214番地、 同215番地・ 二宮町一色1867番地		
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>この地区の里山は手入れがなされず竹が蔓延し鬱蒼とした竹林になっていた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>この地区の竹林を間伐し、植樹ができる環境を作る。</li> <li>この地区から切り出した竹材等を炭焼き窯のある炭焼き広場に持ち込み、木炭・竹炭の製造に利用する。</li> <li>広葉樹の植樹に備えて苗木を育成する。</li> <li>ホームページにタイムリーな活動状況をアップ、広報活動を行う。</li> </ol>			
<p>【事業の成果】(結果)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅30m・奥行50mの皆伐を終えた後、伐採後に生えてきた竹などを数回刈払いして、植樹ができる環境を整えた。</li> <li>更に、人家に近い町道に沿った山の法面に密生している竹林の皆伐に着手し、幅20m・奥行50mの半分の伐採を終えた。</li> <li>竹林から切り出した竹材等を炭焼き広場に持ち込み、木炭・竹炭・木酢液・竹酢液の製造を行った。(木炭窯入れ11回、生産量2800kg、竹炭窯入れ4回、竹酢液240リットル、竹酢液精製7回、竹酢液ボトリング500ml・130本、木酢液ボトリング2000ml・40本)</li> <li>広葉樹の苗木は2mほどに成長、4月初めに植樹予定。</li> <li>ホームページに毎月活動状況をアップし、広報活動を行った。</li> </ol>			
部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	15日	214人(領214人、領外0人)	面積 0.15ha
間伐材	70% 68日	801人(領801人、領外0人) 829 829	種類 竹、コナラ・イヌシデ等雑木 搬出量 太さ10cm長さ10mの竹400本等
河川・地下水	日	人(領 人、領外 人)	
その他	日	人(領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人(領 人、領外 人)	
調査研究	日	人(領 人、領外 人)	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>該当品なし</p>			

※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。

※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	水源地域の豊かな水と自然を知る環境教育プログラム実施事業
団体名称	特定非営利活動法人 丹沢自然学校
実施期間	平成 29 年 4 月 3 日から 平成 30 年 3 月 27 日まで
実施場所	西丹沢の西沢・モロクボ沢 (山北町) ほか

【事業の目的及び目標】(計画)

水源地及びその周辺で自然体験プログラムを実施し、①水源の森林や沢の保全や、②自然に根ざした伝統文化の継承の大切さを体感していただくことを目的に、本事業を計画しています。

このうち①については、丹沢の源流の沢でシャワークライミングのプログラムを実施します。全身に水を浴びて沢をさかのぼりながら、水生生物の観察、湧き水の比較、水の浄化実験等を通じて、この沢が私たちの利用する水の源であることを伝え、水源の森林の保全の大切さを知っていただきます。参加人数は延べ 50 名を想定し 10 回程度の実施を計画します。

また②については、新しい水源林保全の普及啓発プログラムの実施を目標に、大学研究室と連携したエコツアープログラムの開発に取り組みます。具体的には、四十八瀬川上流部に位置する上秦野地域において、エコツアーの資源調査や住民への聞き取り等を行い、それをもとに、地域の生業や伝統文化を学ぶ新しいエコツアーを 1 回以上企画して実施することをゴールとします。

【事業の成果】(結果)

上記①について、補助金の活用によりプログラム実施に必要な道具(沢靴、ヘルメット、川網)を購入しました。また丹沢自然学校のパンフレットのリニューアルを行いました。これらの活用により、7~8 月にはシャワークライミングを 7 回実施(雨天等で 2 回中止)し、27 名の参加者がありました。

また上記②について、文教大学国際観光学科・海津教授及びゼミ学生と協働で、上秦野のエコツアーの資源調査を 5 回実施し、教授および学生延べ 16 人が参加しました。これをもとに 1 月にモニターツアーを ①回実施し、一般参加者 7 人と学生 4 人の参加がありました。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	人(領 人、領外 人)	面積 ha
間伐材	日	人(領 人、領外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人(領 人、領外 人)	
その他	日	人(領 人、領外 人)	
普及啓発	17 日	一般参加者 54 人 (領 1 人、領外 53 人)	他に丹沢自然学校会員が スタッフとして延べ 29 名参加
調査研究	日	人(領 人、領外 人)	

シャワークライミングは、夏の天候不順の影響を受け参加者が少なめでしたが、参加者の方々に対しては、これらのプログラムにより、水源の森林や沢の保全や、自然に根ざした伝統文化の継承の大切さについて、お伝えすることができたと考えています。

また道具の購入やパンフレットのリニューアルにより、次年度以降も継続して実施できる状況になりました。

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

50 万円以上の物品は購入していません。

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

※ 事業の成果に記載されている活動  
 ・7/17 安全研修会  
 ・7/22 シャワークライミング現場下見  
 ・12/11 市民事業交流会

4月~12月の  
計6回  
2回予定は  
別途ワークシートに  
記載しては  
1回しかききか  
との申し出。  
430年度は計5回  
2回実施予定

事業結果報告書

事業名	森林の保全・再生事業		
団体名称	戸川森づくりの仲間		
実施期間	2017年 4月 4日	から	2018年 3月 31日まで
実施場所	神奈川県立秦野戸川公園		

【事業の目的及び目標】(計画)

森林は、人の手が入らずにいと、ツルやツタなどに覆われたり、台風や強風、雪害などで折れた木や枝がそのままになり、鬱蒼とした暗い森林になっていきます。

暗い森林になると草が生えなくなり、表土が雨などにより流れたり、土砂崩れの要因の一つになります。

県立秦野戸川公園は、山岳スポーツセンターも隣接し、登山口(登山道入り口)にもなっています。公園内の森林に人の手を入れる事により、公園利用者はもちろんの事、近隣にお住まいの方、登山愛好家などにも気持ち良く過ごせてもらえます。

PR方法としては、看板の設置や積極的な声掛け、イベントへの出展時にPRをいたします。

【事業の成果】(結果)

当初予定していたエリアについては無事に終わりました。

当初は面している道路から20m程度を予定していましたが、景観や周辺とのバランスから、道路より50m程度のところまで整備しました。

笹や竹、ツルなどで覆われていて、倒木が多数あるエリアでしたが、非常に風通しの良い、明るい森林になりました。

公園管理者の方からも、道行く方からも、キレイになったとか、気持ち良い森になったとお言葉をいただいております。

また、雨天により戸川公園祭りは中止になりましたが、公園側からの要望により、クラフト教室およびヨーヨー釣り、団体PR活動を実施しました。(参加人数29名)

来年度は中に入った所のエリアですので、道からの眺めなどを考慮しつつ、整備をして行けたらと思っています。戸川公園祭りも積極的に参加していきます。

今期も当日や前日の降雨により作業中止となった日が数日あって残念だった。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	17日	84人(領84人、領0人)	面積 0.5ha
間伐材	日	人(領人、領0人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人(領人、領0人)	
その他	1日	33人(領4人、領29人)	
普及啓発	日	人(領人、領0人)	
調査研究	日	人(領人、領0人)	

【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

なし

※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。

※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	中井町里山再生に間伐材の利用促進事業
団体名称	なかい里山研究会
実施期間	H29年4月13日から平成30年3月31日まで
実施場所	中井町井ノ口地区の山林

【事業の目的及び目標】(計画)

中井町井ノ口の里山は、放置され荒廃が進んでいる。  
 そこで適切な下刈り・間伐を行い林床に太陽光を取入れ、水源林としての里山を再生する活動を行う。  
 作業で生じた間伐した材は、出来る限り廃棄することなく活用して成果物を製作、販売などを通して市民に活用してもらおう。  
 また、作業には県民に参加・体験してもらいその活動内容や自然環境保全の重要性を参加者に認識してもらおう。

【事業の成果】(結果)

29年4月から適切な下刈り・間伐を行い林床に太陽光を取入れ、水源林としての里山を再生する活動を行ってきた。  
 そこで生じた間伐材からは、多くの成果物を生産し、一部は販売する事もできた。  
 具体的には、ホダ木や炭焼きの原木として活用、炭焼きのさいに生じる木酢液を蒸留して商品の付加価値を高めた。その他にも竹林間伐材を、ミニ門松など竹細工原材料としての活用も行ってきた。  
 また、ほだ木の植菌やミニ門松造り、炭焼きには、県民に参加・体験してもらおう事が出来た。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	人 (領 人、領外 人)	面積 1.1 ha
間伐材	12月27日 39.4日	157人 + 30人 482人 (領452人、領外30人)	種類 こなら、竹、雑木 搬出量 約100 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人 (領 人、領外 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	

【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	森林(伊勢原市三ノ宮里山)の保全・再生事業、間伐材の利活用促進事業
団体名称	特定非営利活動法人 ファームパーク湘南
実施期間	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
実施場所	伊勢原市三ノ宮 1402-3、1405-1、1406 齊藤光明氏他所有の森林・竹林

【事業の目的及び目標】(計画)

伊勢原市三ノ宮地区の荒廃した林や竹林を間伐整理し、その際に出る竹材やチップの活用を図る。具体的にはチップの堆肥化、腐葉土化、輪切りした竹材の様々な利用である。

所有者も所有森林について自己努力だけでは整備できないことから、上記目的をご理解いただきいろいろとご協力を頂いている。副次的効果として竹林の外観の改善、水源涵養機能の改善も見込まれる。

当事業は県の水源環境保全再生市民事業補助金で行っていることをホームページやいろいろな会合でPRに努め、県民市民のご理解をいただくことも大事なことを考えている。

【事業の成果】(結果)

- 竹チップの堆肥化、腐葉土づくりについて 年間6回の竹伐採、2回のシュレッダー作業により大量の竹チップを生産してきた。その一部を堆肥作り、駐車場や花壇の通路に敷く、作物へのマルチ等に利用してきた。メインの取り組みである堆肥化であるが、米ぬかのみ純正品を目指したが、秋口からの取り組みと言うこともあり発酵が思うように進んでいない。今度は牛糞を加えての発酵を試みている。やや費用がかさむが別法として石灰窒素混入なども検討中である。
- 竹材(玉切り材)の利用について 2mものにして数百本を産出し活用に取り組んだ。竹垣作り、棚作り、暗渠排水利用など効果的であった。管理農園の土留め整備にも利用できた。講師を招いての門松作りは近所に配ったり地元小学校に寄贈して喜ばれた。
- 甲虫類を育てる 竹チップ腐葉土の中のカブト虫幼虫を育ててきた。200匹ほどの羽化に成功はしたが、過密のせいか前羽(固い方)が展開しない成虫も出て子どもたちへの配布には至らなかった。次年度の課題である。
- 竹間伐により、隣の山林に竹の根が伸びるのが抑えられており、同時に行っている植樹ともあいまって健全な山林に少しずつ回復しつつある。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林保全再生	日	人(領 人、領外 人)	面積 ha
間伐材	18日	89人(領 89人、領外 人)	種類 竹・雑木搬出量、100 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人(領 人、領外 人)	
その他	日	人(領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人(領 人、領外 人)	
調査研究	日	人(領 人、領外 人)	

【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

(当初予定 12日・80人)

事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。

実施状況資料は別紙

実施状況がわかる写真は別紙

事業結果報告書

事業名	<del>定着支援部門</del> 間伐材の利活用促進事業。		
団体名称	森のなごま 3		
実施期間	平成 29 年 4 月 7 日から平成 30 年 3 月 31 日まで。		
実施場所	又野溪畔林・萩蓬・毫の甲・馬の背		
【事業の目的及び目標】 (計画)			
<p>○ 手入れの行き届いていない人工林を木支打ち・除伐・間伐、などを行うことで、動物・植物・人にとっても心地よい森を作り、間伐した材を有効利用し、ますます心地よい森となることを原野で作業を進めていく。</p> <p>○ 小田原市の街に間伐した材で作ったベンチを設置することで森の心地よさや手入れの大切さを感じてもらうようにする。</p>			
【事業の成果】 (結果)			
別紙参照			
前期 15日, 後期 14日			
部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	29 日	人 (会 人、会 人)	面積 ha
間伐材	<del>22</del> 日	138 人 (会 36人、会 2人)	種類 7/キ 搬出量 10 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (会 人、会 人)	
その他	日	人 (会 人、会 人)	
普及啓発	日	人 (会 人、会 人)	
調査研究	日	人 (会 人、会 人)	
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】			

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

## 1月21日は竹林整備

【1月21日の作業について】 日時 2018年1月21日(日)  
9:00 - 12:00 晴れ時々曇り 場所 久野霊園近く  
の竹林

参加者(敬称略) 伊東、小野寺、小清水、小林、  
森、森山(文責)

朝、倉庫に加藤さんが寄られました、差し入れ、ありがとうございます。  
本日は緊急作業として、車道沿いに積まれていた竹の片づけを行いました。春のお彼岸の前に終了したい、とのことでしたが、次回の2月の作業で終わるめどは立ちました。この竹は「A緩斜面」エリアを山主さんが数年かけて手入れしたときに発生した廃材とのことで、見かけ以上の量がありました。作業したエリアを「D杉林」とつけましたが、杉の間隔

は広めで、杉のほかアオキ、シロダモ、ニッキの木、なども生えていました。小型の竹の繁茂も盛んです。この小型の竹は、稗(カン)から枝が本出る、稗の直径は4cm程度、根元近くの節に気根が輪生する、タケノコが出るのが秋かもしれない(今日も枝を展開していないものがあつたため)、という特徴があり、あとで調べたところ「シホウチク(四方竹)」が一番近いと思いました。ただシホウチクの最大の特徴である、稗の断面が幾分角ばった方形になる、という点はあてはまりません。とりあえずシホウチクと呼びますが、それが今日の作業のポイントになりました。Dのエリアは車道から奥に入ると谷になっており、谷底方向に竹を捨てれば目立たない、という考え方ははじめは手渡しで竹を運びました。途中で単管を組んだ柵を外すことで作業効率が上がりましたが、一日では終わらない、と悟った後半には方針転換で、「とりあえず谷底に投げる」ことに専念して、積んであつた竹の8割程度は視界から消えました。投げたままでは不法投棄も呼び込んでしまうので、例の

「シホウチク」を伐採して上にかぶせました。自分たちでも驚くほどの美しいカキナラージュが出来上がりました。今回は残り2割の竹を谷底に送ったあとで、谷底を整理します。それからタケノコ取りのメインとなる



「A緩斜面」のエリ

アで、枯損竹、変色の古い竹、を伐採しますが、伐採した竹をどのように処分するかが課題です。

よろしく願いいたします。森山太郎

## 1月28日は、久野溪畔林で作業

☆2018年1月28日(日) 9:00~12:00  
☆活動場所...久野溪畔林(峯自然園近く)

☆参加者...8名(赤木・石川・小野寺・小清水・

中山・廣川・森・森山)

☆以前製作し、少し丈が短いという理由でずっと

倉庫に置いたままになっていたベンチを久野溪畔林の散策路に設置しました。

入口から近くて景観の良い場所を選び、ベンチ

の両側に杭を打って固定しました。ベンチに腰掛

けると対岸の大木が見えて、心が癒される感じが

しました。隠れたパワースポットになるのでは?

と期待しています。( ^ 0 ^ )

その後、休憩をはさみ溪畔林の奥の方で間伐作業

を行いました。

チェーンソー一班と手のこ班に分かれて活動し、

4本の木を伐採しました。木のサイズは、

☆18m×6cm ☆19m×6cm (手のこ班)

☆14m×14cm ☆19m×22cm (チェーンソ

ー班) 休憩の時は加藤さんの差し入れのエビせん

べいをいただいて和み、デザートに廣川さんが

持って来て下さったみかんをいただきました。

昼食は設置したベンチのところでとりました。

作業の途中で少し雪が舞うような天気では

冷えましたが、心は温かい1日でした。

これから作業を重ね、散策に来る人が喜んでく

れるような場所にしたいと思います。(小清水)

# 2017年 11月26日(日) VMECO まり参加 ♪

12月10日は亀の甲で作業しました 5

12/10(日)亀の甲作業報告です。(赤木 康雄)

天気 晴天12°C

参加 山本・森・中山・赤木 4名 森谷夫妻が途中見えました  
作業 新月伐採方式にて5本切断。

直径x全長 16cm x 13m

18 x 13

16 x 13

18 x 13.5

16 x 12

12月23日は竹林整備とヒノキの輪切り作りをおこないました 6

12月23日(土・祝) 9:00 - 12:00 竹林整備

参加者(敬称略) 石川、伊東、森、森山(文責)

(倉庫でヒノキの輪切り作り:小清水、山本)

♪ よ二手に分かれての作業となりました。

竹林へは4名が向かい、林内歩道の山側斜面の片付けをしました。

この日は樹木を伐採する必要はなく、竹の処理に集中できたため、作業がはかどりました。

改めてわかったのは、この場所は杉林に竹が侵入・繁茂しており、杉の枝にぶつかると竹が先端から枯れてしまうため、竹林として整備していくのは難しい、ということです。

今後は、水道管の上流方向に片付けの範囲を広げる見込みです。

また、山主さんに話をうかがったところ、孟宗竹の竹林についても、手入れが必要ということで、いったん山主さんを交えて調査してから来月からの作業内容を定めることになりました。



12月24日は亀の甲で作業をおこないました 7

道から見える部分の笹刈り(赤木・森山)と

間伐(伊東・小野寺・石川)を行ないました。

間伐は、計7本、2mに玉切りを行ない、亀の甲産と解るように、元部に日付と産地を記入しました。

(石川)

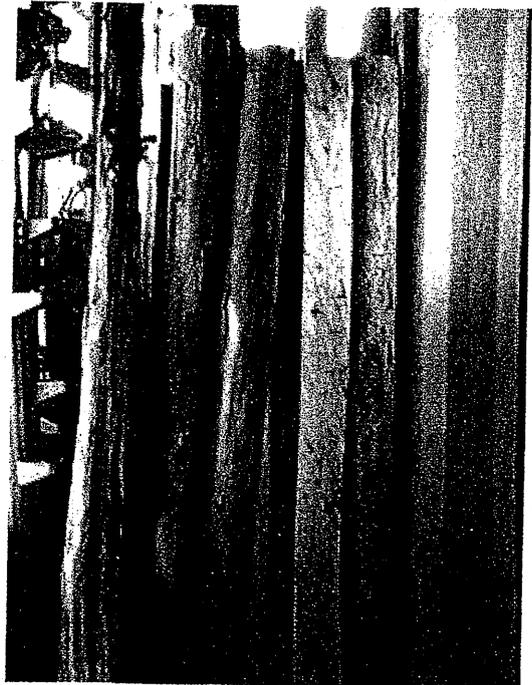


1月7日(日)は、製材とベンチの組み立てと

久野溪畔林に置くベンチのペンキ塗りを行い

ました。

参加者: 赤木・伊東・小野寺・小清水・森山・山本



2017年10月9日(日) 遊び・ふれあう・体験する

SATOYAMA & SATOUMI

秋キャンプIN小田原の

10月29日(日) 中止 イベントに参加

竹林整備2017年11月5日 2

参加者(敬称略):岩田、小野寺、加藤、小林、中山、森、森山

作業時間 9:00-12:20

作業内容 通路の山側斜面の倒竹整理

8月以来の久しぶりの竹林整備でしたが、

好転に恵まれ、また7名の参加者が集まり、

作業がはかどりました(「集合写真」参照)。

台風21号の影響は久野の竹林にもありま

した。新しい青竹が根元から倒れて通路を

ふさいでいました(「台風の痕」参照)。

4月の経った竹も、もちろん多く倒れて、

森全体でナナメの竹が増えてしまいました。



今回は、初めて、通路の山側斜面の整備

に取り掛かりました。(「作業前」参照)。谷

側斜面より勾配が急で、竹の根元の土が

流出して空中に浮き上がっているような竹

もありました。また枯れた竹が谷底に向か

って滑り落ち、引っ掛かっています。ところ

どころ、杉の倒木も谷底に向かってい

ます。作業は、これら等高線に直交している枯れ

竹/倒木を、等高線に平行に並べ直す形

で進めました。斜面に杭を打ち、竹置き場

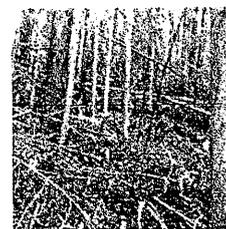
を作りながら整理しましたが、参加者も複

数回この現場を経験して要領が良くなっ

てきました。(「斜面の竹置き場」参照)

気温も涼しく、快適な環境で普段より長

めに作業をしました。作業の後半では「し



がらみ」も作りました。竹置き場とあわせ

て、土壌の流出を抑える働きに期待しま

す(「作業後」参照)。写真では見づら

いですが、斜面の上方には未整備のエリア

が残っています。

倒れた竹は、枝がからみあい、地面を暗

くさせています。片付けることで地面まで

太陽光が差し込んでいます。

本日もケガなく作業を終えましたが、「ヒ

ヤリ・ハット」の反省としては、山側斜面の

作業では、竹の切り倒し時の安全確認は

今まで以上に要注意、ということです。通

路の高さに人がいることが自然と多くなり

ますが、斜面の上から伐採した竹が倒れ

てくる(または斜面を滑り落ちてくる)と、

加速度がついて通路の高さに到達し、

気がついてから避けるのでは間に合わ

ないと感じました。谷側で作業していた

ときは谷底に人がいなかったのですが、

山側の作業は気をつけたいです。

次回は、12月3日(日曜)の作業となります。

また多くの人に集まって頂ければと思

います。(文責、森山)



11月12日(日)は、亀の甲で新月伐採を行いました。3

参加者:赤木・伊東・岩越・小野寺・小清水・山本

○材の利用のために新月伐採を行いました。間伐した木は下に向けて

そのまま葉枯らしをし、3か月後に集材をすることにしました。

20cm×12m 24本



2月11日(日) 9:00~12:00

岩瀬宅倉庫にてベンチづくり

参加者…赤木、石川、岩田、小野寺、小清水、小林、森山(途中で廣川さん)

2月とは思えない温かい1日となりました。

今日のおもな作業は3つでした。

① 途中まで組み立ててあったベンチを完成させる。…森山さんを中心に完成!⇒山本さんのおうちに届けました。

② チェーンソーで半割丸太を作る。…3人組(赤木さん、岩田さん、小林さん)で知恵と力を出し合い作業しました。10本ほどの半割が完成。

5本ほどはやすりがけが終了。そのうち2本には塗料も塗りました。⇒倉庫に立てかけて保管しています。

③ 森林内での製材活動に今後必要となる道具の製作…小野寺さんが担当…途中で顔を出してくれた廣川さんの意見を聞きつつ試行錯誤。

必要な材料も購入しました。

パーツがそろい始めたので、これからの作業がしやすくなりました。

石川さんにチェーンソーのオイルと配合容器を寄付していただきました。

廣川さんには竹割り道具を貸していただきました。ありがとうございます!

森山さんのたき火&みそ汁で心も体も温まりました。( ^ 0 ^ )

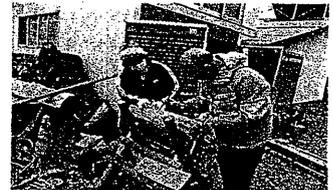
2月25日(日)は、りそな銀行のベンチを引き上げ新しいベンチ作りと補修をしました。

参加者: 赤木・石川・小清水・森山・山本

〇りそな銀行の前に設置していたベンチのペンキが剥げてしまい、補修が必要となり、朝一番に赤木さんと森山さんがりそな銀行の前のベンチと先日作っていただいたベンチを変えてくださいました。

小清水さんと森山さんでさしがねを使って直角を取りベンチの脚が安定できるように工夫しました。

一方、赤木さんはりそな銀行前に置いてあったベンチのお色直しに取り掛かりました。職人氣質のベルトサンダーがけでたちまちベンチは以前のような精彩を取り戻しました。そのあと、ペンキの塗り直しをしました。しばらくして石川さんも来て下さり、ベンチの脚のサンダーかけをしてくださいました。



3月11日は亀の甲で間伐をした木を使い道に分けて切り集材しました。 13

参加者：赤木・石川・小清水・小林・中野・中山・森・森山（森谷）

○それぞれの目的に合わせて2メートル・3メートル・1メートルなどに切り、集材しました。みなさんかなり集材の作業はきつく厳しいものでしたが、たくさん運び集材が行われました。森谷さんが寄ってくれました。

3月25日の作業について報告します。 14

作業場所…久野・亀の甲

作業内容…林内整備・材の搬出

参加者…赤木・森山・小清水（3名）

☆天気も良く、作業を始めると汗がジワリと出てきました。

3人で力を合わせ、切り倒してあった木を3m・2m・杭用の1mに切り分け、下に運びました。

休憩をはさみ、おおよそ2時間作業し、

3m…9本（累計18本）、2m…7本（累計13本）、杭…5本（倉庫に持ち帰り）、てっぺん木…4本（累計5本）

を下まで運びました。森谷さん、いつでも都合のよい時に取りに来てくださいね。

まだまだ手つかずの木がありますが、4月5月で運び出せたら、と思います。

間伐が進んだおかげで林内が明るくなり、広葉樹の芽生えがあちこちで見られました。きれいな緑でした。

事業結果報告書

事業名	秦野戸川公園森林整備事業
団体名称	森のなかま 2012*
実施期間	平成29年 4月 13日から、平成30年 3月 24日まで
実施場所	秦野戸川公園 (秦野市堀山下1513)

【事業の目的及び目標】(計画)

秦野戸川公園内の杉、桧の人工林や竹林、雑木林の適切な管理のもと、豊かな森林を育て、人と自然が共生できる環境を整備することを目的とし、平成29年度は森の自然観察ゾーン(A~F, Z地区)の5ヶ年計画を立てC区域の杉、桧の間伐枝打ち、倒木・枯木処理、土留め作業、下草刈り、ツル切り等を作業計画書にもとづき活動回数12回、参加人数120人を予定し秦野戸川公園森林整備事業を計画しました。  
今年度は5カ年計画の2年目であり、新しい活動区域の状況を見極め安全第一に作業を進める。また、勉強会、チェーンソー研修会、ブラッシュアップ研修会の参加、地域ボランティア団体との交流会の参加を計画しました。

【事業の成果】(結果)

5カ年計画の2年目、C区域は4月から実行し順当に作業が出来ましたことは会員の皆様の協力です。延べ活動回数、延べ参加人数は下記のとおりです。杉、桧の間伐、枝打ち、倒木・枯木処理、土留め作業、下草刈り、ツル切り、雑木、篠竹、真竹等を作業計画書にもとづき作業を実施し終了しました。特に道路付近は不法投棄が多く、つぶさに集積して公園側に処理して頂きました。

(公財)神奈川県公園協会主催の第12回秦野戸川公園祭りは小雨で参加人数は少なかったが県民の皆様へ間伐材を使って実際に鋸で丸太を切って体験していただきその際、水源環境保全・再生施策の事業であることのPRを行った。また県の水源環境保全課、専門委員の皆様が現場に訪れ森林整備作業を視察し作業内容を理解して頂きました。

1年間、安全を第一に無事故で秦野戸川公園森林整備事業を終了したことに感謝し、平成30年度は活動区域を「森の自然観察ゾーンF区域」に移し、継続して実施する予定です。また、(公財)神奈川県公園協が2月9日に企画した「移動式炭焼機研修会」に参加し、炭焼きの知識を修得しました。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	14日	77人 (領 77人、領外 1人)	面積 2,400㎡
間伐材	日	人 (領 人、領外 人)	種類 搬出量 m³
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人 (領 人、領外 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	

【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

上期活動日数 6日 32人

下期活動日数 8日 45人(1人余計)

計 14日 77人

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

平成 29 年度事業結果報告書

事業名	森林保全・再生事業
団体名称	湯河原森のなかま
実施期間	平成 29 年 4 月 13 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで
実施場所	足柄下郡湯河原町鍛冶屋字辰沢 954~5

【事業の目的及び目標】(計画)

今年度は、28 年度活動エリアを継続し 1.00ha を活動エリアとする。同エリアは、町有林で県指定の「土砂流失防備保安林」であるが、荒廃が進んで来ている。県民が森林整備を通して森林の重要性に気づき、我々の活動により地域の活性化に繋がること、森林整備により「土砂流失防備保安林」としての機能が向上すること、を目的に間伐等の森林整備を実施する。  
 また、同補助金を活用して活動を行っていることを PR するため、地元紙を通じた PR、会員募集の際補助金について説明をすると共に、作業現場入口の林道に「しずくちゃん」のロゴマーク入りののぼり旗を立て啓蒙する。

【事業の成果】(結果)

長い間放置されていた人工林(ひのき、一部スギ)は、混み合った樹幹が大幅に解消し、日差しが地表に届いてきた。今後下層植生の成長が期待される。  
 間伐材は、土砂流出防備に役立つように等高線上に沿って移動整理したので、表土の保水力が向上してきた。  
 1 月には町主催の農林水産祭りに参加し活動を PR した。同時に、間伐材を利用したスエーデントーチ製作・出品し来場者の関心を集めた。  
 また作業フィールド入口の林道に「しずくちゃん」のロゴマーク入り幟旗を立て PR に努めた。

年間間伐目標本数 : 229 本 ⇒ 実績 : 190 本 (83% 達成)

※ 申請時 実施回数 30 回、人数 100 人  
 ※ 講習 2 回  
 ※ 面積 1.0ha、実施状況良好

① 54人 ② 54人

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	37 日	10 7 人 (領 27 人、領外 0 人)	面積 1.0 ha
間伐材	日	人 (領 人、領外 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人 (領 人、領外 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	竹を活かすヤマ仕事 (中井町竹林再生事業)
団体名称	特定非営利活動法人よこはま里山研究所
実施期間	平成 29 年 4 月 17 日から 平成 30 年 3 月 18 日まで
実施場所	神奈川県足柄上郡中井町松本300-1 字 堂山284、285 字 寺の脇305-1

【事業の目的及び目標】(計画)

本事業が対象とする竹林は、地権者による手入れが行き届かなくなったために、水源環境としての機能低下と貴重な里山生態系の劣化を招き、生産農家が所有する農地にまで竹が侵食し、地域の農業にも脅威となっていた。継続的な保全活動を行う事で、竹林環境は少しずつ改善されてきたが、良質な水源林を維持する為に、29年度もボランティアを募りながら継続的に保全活動をおこない、水源環境の保全・再生および地域活性化への貢献を図ることを目的とする。本事業についてHPやメルマガなどで広報する際、同補助金事業であること明記してPRに努める。

【事業の成果】(結果)

継続的に竹林の整備を行う事で、竹の繁殖による水源林の荒廃を抑制する事ができ、良質な竹林を維持できた。

また、間伐により林内に陽射しが差し込み、林床を豊かにする事で筍の収穫量も増え、地域へ貢献する事ができた。

ホームページで事業成果を報告したり、メールマガジンにて参加者を募ることで、都市住民の参加者を増やす事にも繋がった。

参加者の中にはリピーターとして定着し、定期的に活動へ参加するものも増えている。

(平成 28 年度参加者数：83 人 会員 10 人・会員外 73 人)

実施事業の詳細については、添付資料「事業実施報告」を参照

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	10 日	99 人 (領 10 人、領外 89 人)	面積 0, 4ha
間伐材	日	人 (領 人、領外 人)	種類 竹 搬出量 180 本
河川・地下水	日	人 (領 人、領外 人)	
その他	日	人 (領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人 (領 人、領外 人)	
調査研究	日	人 (領 人、領外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	もったいないから竹細工
団体名称	特定非営利活動法人よこはま里山研究所
実施期間	平成 29 年 4 月 9 日から 平成 30 年 3 月 24 日まで
実施場所	横浜市南区宿町 2-40 団体事業所

【事業の目的及び目標】(計画)

竹林の間伐を実施しても、竹材をその場に放置すれば、水源環境は改善されない。本事業では、水源地域の竹林保全・再生活動で伐出された竹材について、竹かごや竹細工などを製作することによって、間伐材を有効に活用することが目的である。また、竹材の利活用や普及啓発と竹林の保全・再生を組み合わせ一体化した事業として推進していくことにより、主として都市住民に向けて、水源環境を整備する必要性と地域資源を有効に活用することの社会的な意義を伝え、中井町における竹林の保全・再生事業への参加を促すことも重要な目的である。

本事業について HP やメルマガなどで広報する際、同補助金事業であること明記して PR に努める。

【事業の成果】(結果)

竹かご教室の定員数を 10 名から 13 名へ増員し、新規参加者の誘致を積極的に行った事で、リピーター一定着率を高めることが出来た。竹細工工房の参加時間帯を 3 パターン化(午前・午後・通し)することで、参加者数を増やすことが出来た。

また竹籠教室を通じて間伐材を利用する事で、材の加工に興味を持ち、都市住民が保全・再生事業へ継続的に参加する機会を作る事もできた。

【もったいないから竹細工(竹かご教室)】

平成 29 年度：計 12 回実施 参加者：のべ 144 名(参加者：120 名 スタッフ：24 名)

※平成 28 年度 計 12 回実施 参加者：のべ 131 名(参加者 107 名 スタッフ 24 名)

【もったいないから竹細工(竹細工工房)】

平成 29 年度：計 12 回実施 参加者：のべ 219 名(参加者：195 名 スタッフ 24 名)

※平成 28 年度 計 12 回実施 参加者：のべ 138 名(参加者 114 名 スタッフ 24 名)

各事業の詳細については、添付資料参照「事業実施報告」を参照

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	日	人(領 人、領外 人)	面積 ha
間伐材	* 24 日	363 人(領 *315 人、領外 *48 人)	種類 搬出量 m <sup>3</sup>
河川・地下水	日	人(領 人、領外 人)	
その他	日	人(領 人、領外 人)	
普及啓発	日	人(領 人、領外 人)	
調査研究	日	人(領 人、領外 人)	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。

※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

平成29年度 事業実施報告書

竹を活かす山仕事【森林の保全・再生事業】 技術指導 宮原正樹

		参加者	スタッフ	内容
4月	16日	11	1	筍堀 間伐および材の搬出作業
5月	21日	10	1	間伐および材の搬出作業
6月	18日	10	1	間伐および材の搬出作業
7月	16日	6	1	間伐および材の搬出作業
8月				お休み
9月				お休み
10月	15日	9	1	間伐および材の搬出作業
11月	19日	10	1	間伐および材の搬出作業
12月	17日	8	1	間伐および材の搬出作業
1月	21日	7	1	間伐および材の搬出作業
2月	18日	9	1	間伐および材の搬出作業
3月	18日	9	1	間伐および材の搬出作業

11/15

当日及び29日雨天の為、11月5日実施

89 \* 10 \*

竹かご教室【間伐材の利活用促進事業】 講師 山口和美 アシスタント 松坂義之

		参加者	スタッフ	内容
4月	8日	9	2	竹かご作り
5月	13日	8	2	竹かご作り
6月	10日	9	2	竹かご作り
7月	8日	9	2	竹かご作り
8月	12日	9	2	竹かご作り
9月	9日	9	2	竹かご作り
10月	14日	8	2	竹かご作り
11月	11日	11	2	竹かご作り
12月	9日	11	2	竹かご作り
1月	13日	13	2	竹かご作り
2月	10日	11	2	竹かご作り
3月	10日	13	2	竹かご作り

120 \* 24 \*

竹細工工房【間伐材の利活用促進事業】 講師 山口和義

		参加者	スタッフ	内容
4月	22日	20	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
5月	27日	14	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
6月	24日	19	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
7月	22日	17	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
8月	26日	16	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
9月	23日	14	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
10月	28日	12	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
11月	25日	16	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
12月	23日	15	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
1月	27日	17	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
2月	24日	16	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど
3月	24日	19	2	竹ひご作り かご編み カトラリー作りなど

195 \* 24 \*